



# 青葉の森公園芸術文化ホール イベントレポート

当ホール主催の公演・講座の雰囲気をおみなさまに発信する「サポーターライターズ」の方によるレポートをお届けします。

## EVENT REPORT

平成30年  
3月17日[土]

**ア** リアナ・セイユさんのステージを観るのは2回目である。彼女は変わらず美しく華やかなオーラに包まれていた。綺麗な真っ白い歯がチャームिंगな笑顔に絶やさず、曲ごとに衣装や髪飾りを換え、滑らかに優雅な動きで周囲を魅了する。

まさに天性のフラダンサー。だが、日々の努力を続けていることは明らかで、今回のス



う大ベテラン、2人の歌手を招き、彼らの大きな体から発せられる豊かな歌声をたっぷり聞かせてくれた。前回はタヒチアンなどいろいろなダンスを見せてくれたが、今回はハワイの島々を巡り女神に会おうというストーリーがあり、幻想的で神秘的な世界観が感じられた。

最後に登場したアリアナさんは片言の日本語を交えながら感謝の言葉を述べ、

「アリアナ・セイユさんのステージも前回と同じではなかった。アップテンポでポップな曲も多く、よりエンターテイメントという若者とカウマカイヴァという大ベテラン、2人の歌手を招き、彼らの大きな体から発せられる豊かな歌声をたっぷり聞かせてくれた。前回はタヒチアンなどいろいろなダンスを見せてくれたが、今回はハワイの島々を巡り女神に会おうというストーリーがあり、幻想的で神秘的な世界観が感じられた。」



「フラの伝統を守るため常に新しい試みを取り入れていかなければならない。それはとても緊張することだが、チャレンジしていくことは必要なことだから。」と言っていた。それを聞いて私は歌舞伎役者を思い出した。彼らもまた、伝統を守りつつ時代の変化を取り入れていくことに常に苦心しているように思われたからである。

第1部では千葉県内の5つのサークルがフラを披露した。それぞれに趣向を凝らした衣装で満面の笑顔で踊り素晴らしかった。フラは以前から日本で人気のある習い事のひとつだとは聞いていたが、その水準の高さをあらためて認識した。

客席は満席に近く、フラ関係者も多かったのか、時折出演者に声もかかり、とてもノリがよかった。フレンドリーな雰囲気、漂うあたたかいステージだった。

「オープニングは県内のフラ団体・サークルの三団体の発表でした。プア・マエ・オレ・フラスタジオとハラウ・オ・マオポポ・アロハと松江真理フラスタジオの方たちです。裸足で素敵な衣装に身を包み、しなやかな手足の動き、ゆったりとした音楽、すべて一体になって観客をハワイにつれて行ってくれたような雰囲気になりました。一階はほとんど女性たちでいっぱいでした。舞台には豊かな声量で歌えるジョシュ・タトフィさんが登場し、アリアナさんと仲間たちの踊りが始まりました。残念ながら、歌詞の意味は全く分かりませんが、伸びやかな歌声とバックに映し出される映像の美しさに見入ってしまいました。衣装替えもスムーズで素晴らしいものでした。10分の休憩をはさみ、カウマカイヴァ・カナカオレさんとの共演でした。感情豊かに歌い上

「最後のインタビュの中で『たくさんさんの愛をこめて』という言葉と一緒に歌い上げた曲がとても素敵でした。満開の桜の映像が流され、アリアナさんがその前でしなやかに踊る姿は、本当に美しかったです。フラには神々への祈りという意味もあるのか。『私たちのフラはこれまでとは違う印象を持たれた方もいると思います。伝統文化を守りつつ、これからも新しいものを取り入れるサポートをしていきます。』とアリアナさんは話していました。シニア世代に根強い人気のあるフラ。さらにはたくさんさんのファンが増えてくれることを願っています。

「先ほどとは違った魅力がありました。また、アリアナさんが今あるのは、母のおかげと紹介され、真っ赤な衣装と白のレイで登場した母・イワラニさんが軽やかに素敵に踊りました。」



「美しい笑顔のアリアナ・セイユさんのポスターに誘われ、フラを習い大好きになった女性たちがたくさん会場につめかけました。ホールの入り口には、フラのパウスカートやTシャツが所狭しとおかれ、買い物を楽しんでいる姿も見られました。」

